

【2025年度 事業報告】

(公益目的事業1) 次代を担う青少年の健全な育成に資する事業

1. イオン チアーズクラブ(予算: 2億6,180万円、実績: 2億6,160万円)

自然環境や社会貢献活動などに興味や関心を持ち、考える力を育む場として、小中学生を対象に体験学習を行っています。各クラブは1年間の成果を壁新聞に取りまとめて発表しています。

2025年度末時点で507クラブ、7,173名となり、昨年度末より59クラブ、899名増加しました。2025年度末までの活動回数は、5,284回(昨年差+909)となりました。

(1) 本年度の主な取り組み

① クラブ数とメンバー数の拡大

新店でのクラブ発足に加え、寄付企業による積極的なクラブ新設により、クラブ数が増加しました。また、メンバー数が少ないエリアにおいて、シネアドでの募集広告を上映したほか、新規開設店舗での紹介ブースの設置、SNS、ウェブ広告を活用した募集活動等を実施し、メンバー数の拡大につなげました。

② 「三木里脇チアーズ農園」の開園

3つ目のチアーズ農園となる「三木里脇チアーズ農園」を2025年4月に開園しました。同農園では、近隣の4クラブがぶどうの芽かきや大根の種まきなど、収穫だけでなく1年を通して一連の農作業を体験しました。

③ イオン チアーズクラブコーディネーター研修の実施

本年度は、「壁新聞の作り方」に加え、「活動計画の立て方」と「子どもとの接し方」をテーマとしたコーディネーター研修会を計8回開催し、のべ742名のコーディネーターが参加しました。クラブ活動を支えるコーディネーターの育成により、活動内容の充実を図りました。

(2) 全国大会

クラブごとに1年間の活動成果をまとめた壁新聞の審査会を全国13エリアで行い、入賞した33クラブのメンバーとコーディネーターの総勢182名が、2025年8月1日から2泊3日で北海道と関東に集まりました。

北海道では、支笏湖畔での自然観察や札幌オリンピックミュージアムでの見学、関東では、茨城県自然博物館や宇宙航空研究開発機構(JAXA)の施設見学を通じて、子どもたちの学びの機会を創出しました。

(3) 首里城ポスターコンクールの実施

イオン チアーズクラブメンバーを対象に、首里城を描いたポスターコンクールを実施し、881点(昨年差+87)の作品が寄せられました。本年度より沖縄県からの後援をいただくとともに、沖縄県知事賞を新設しました。さらに上位入賞者20名とその保護者を沖縄県へ招待し、2025年11月1日に首里城にて表彰式を開催しました。

2. 中学生作文コンクール(予算：4,710万円、実績：6,150万円)

多感な時期といわれる中学生が環境に関する社会問題をテーマに自分自身の考えをまとめ、書く力を養うことを目的として実施しています。本年度は応募が17,122点（昨年差+9,610）となり、中学生作文コンクールとしては日本屈指の規模となりました。

(1) 本年度の主な取り組み

① 応募作品数の増加

本年度は、募集開始時期を前倒ししたことに加え、中学生の間に知名度のある審査員の起用や、ポスターデザインの一斉、SNSでの告知強化などを行い、応募の促進を図りました。こうした取り組みにより、学校単位での応募、個人応募ともに昨年を大きく上回りました。

② 「環境大臣賞」の新設

環境に関する社会問題をテーマとする作文コンクールの20年以上にわたる継続的な開催実績が評価され、新たに「環境大臣賞」が加わりました。「文部科学大臣賞」と合わせて二つの大臣賞を擁するコンクールとなりました。

③ 環境エコツアーの実施

表彰式の翌日には、受賞者の学びと交流の場として環境エコツアーを実施し、品川区立の環境学習施設「エコルとごし」にて、「未来へつなぐ私たちのエコ活動」と題するセミナーの受講やワークショップを行いました。

(2) 実施概要

- ・募集期間 2025年6月2日～9月5日
- ・応募実績 17,122点（昨年差+9,610）
- ・表彰式 2025年11月22日～11月23日（環境エコツアー含む）
- ・後援 文部科学省、環境省、株式会社朝日新聞社、朝日中高生新聞

3. イオン エコワングランプリ(予算：5,360万円、実績：5,050万円)

全国の高校生がクラブ単位で取り組んでいる環境保全や社会貢献に関する活動の発表を行い、表現力や発信力を向上させるとともに、優れた事例を見聞きすることで、新たな取り組みに繋げることを目的に実施しています。

(1) 本年度の主な取り組み

① 認知度向上と応募促進

応募対象となる活動を高校生が具体的にイメージできるよう、2024年度の受賞校の活動紹介動画を制作し、YouTubeで配信しました。また、ウェブ広告やSNSでの募集告知を強化しました。

② オリエンテーション、エリアミーティングの開催

募集開始に合わせてコンテストの概要を説明するオリエンテーションをオンラインで開催しました。また、対面でエリアミーティングを開催し、高校生同士が活動内容を共有し、学び合う場を提供しました。オリエンテーション、エリアミーティング参加校から22校の応募がありました。

③ 環境エコツアーの実施

最終審査会翌日に、武蔵野大学有明キャンパスにて環境エコツアーを実施しました。同大学サステナビリティ学科の教授や大学生とのワークショップを通じ、参加者は自身のエコ活動の課題を再認識するとともに、参加者同士の交流により、今後の活動への気づきを得ました。

(2) 実施概要

- ・ 募集期間 2025年6月19日～8月31日
- ・ 参加対象 クラブ単位で環境保全や社会貢献に関する活動をしている高校生（団体応募）
- ・ 応募実績 122件（昨年差▲5）
- ・ 表彰式 2025年12月13日～12月14日（環境エコツアー含む）
- ・ 共 催 株式会社毎日新聞社
- ・ 後 援 文部科学省、環境省

4. イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン

（予算：6,365万円、実績：6,780万円）

アジアの一部地域では、遠方への水汲みに時間をとられ、学校に通えない子どもたちがいます。これらの地域に安全な水を届けるため、（公財）日本ユニセフ協会と協力して全国から寄せられた募金にマッチング寄付を行い、支援を実施しています。

本年度は全国のイオングループ事業所7,830カ所とオンラインで募金を実施し、前年を823万2,740円上回る総額3,181万2,112円が寄せられました。これに当財団からの同額拠出を加えた総額6,362万4,224円を贈呈しました。

(1) 本年度の主な取り組み

① 募金の利便性向上

ショッピングセンターやスーパーマーケットの店頭での募金箱設置に加え、現金利用の減少に対応するため、キャッシュレス募金を並行して実施しました。本年度はホームページにオンライン募金のページを新設し、キャッシュレス募金は約43万円となりました。

② 募金の促進

安全な水の利用が可能となったカンボジアの家庭を現地取材し、この模様を店頭のデジタルサイネージやYahoo!にて広告配信することで、アジアの水問題に対する関心を高め、募金を促進しました。

③ 贈呈式の開催

カンボジアで寄付金贈呈式を開催し、駐カンボジア日本国大使やユニセフカンボジアの代表者にご出席いただき、当財団による同国への支援に対する認知向上に努めました。

(2) 募金実施期間等

- ・ 実施期間 2025年5月1日～6月30日
- ・ 募金場所 全国のイオングループ事業所7,830カ所、ならびにオンライン
- ・ 支援対象国 カンボジア、ラオス
- ・ 募金金額 3,181万2,112円（昨年差+823万2,740円）
- ・ 贈呈金額 6,362万4,224円（当財団から募金金額と同額を拠出）

5. 近野教育振興基金(予算：2,560万円、実績：1,190万円)

(公財)近野教育振興会(山形県米沢市)の「高校生に対する教育支援により社会に貢献する」という思いを受け継ぎ、対象校を山形県置賜地方全域へ拡大するとともに、大学生奨学金を新設しました。

(1) 本年度の主な取り組み

① 新規対象校からの採用

奨学金の対象校を米沢市の6校から置賜地方全域の高等学校13校へ拡大し、新規対象校からの7名を含む合計34名を採用しました。

② 大学生奨学金の奨学生 募集開始

地域の将来を担う人材の育成を目的として、大学進学を志す同地方の高校3年生を対象に募集を開始し、5名を採用しました。

③ 奨学生セミナーの開催

高校生奨学金の奨学生を対象に、2025年11月8日にセミナーを開催し、山形県環境課長より同県での環境への取り組みに関する講話をいただきました。また、米沢の伝統食体験や里山活動の視察、グループワークを通じ、奨学生たちは地元の魅力を再発見し、故郷への理解と愛着を深めました。

(2) 奨学金概要

① 採用結果

・高校生	34名(定員60名)
・大学生	5名(定員5名)

② スケジュール

a. 高校生奨学金

・募集期間	2025年	4月	1日～5月13日
・交付式	2025年	7月	12日
・奨学生セミナー	2025年	11月	8日

b. 大学生奨学金

・募集期間	2025年	8月	1日～9月16日
・交付式	2026年	6月	27日

(公益目的事業2) 諸外国との友好親善の促進に資する事業

1. ティーンエイジ アンバサダー (予算: 1億3,000万円、実績: 1億2,100万円)

将来を担う日本と海外の高校生が、お互いの国の訪問を通じて文化や歴史に対する理解を深め、グローバルな感覚を身につけるとともに、友好親善を深め、両国の架け橋となることを目指す交流プログラムです。1990年から2025年までに、アジア各国を中心とする18カ国、累計2,721名の高校生が参加しています。

(1) 本年度の主な取り組み

① マレーシアとの交流

本年度の交流相手国は、昨年に引き続き中国と、24年ぶりとなるマレーシアとしました。マレーシア現地を訪問するプログラムは今回が初めてとなり、多民族国家であるマレーシアの多様な価値観に触れ、参加した高校生はグローバルな視座を養いました。

② 「小さな大使」としての活動

首相官邸や外務省、各国大使館への訪問に加え、各参加校が所在する都道府県において、知事をはじめとする自治体の首長への表敬訪問を実施しました。また、外務省地域調整官による基調講演に加え、新たに若手大使館職員との座談会を設け、外交官の仕事への理解を深めました。

③ 歴史文化体験の充実

「地域に根差した伝統工芸」をテーマに、黄綬褒章を受章した職人の指導による組紐体験や、鈴鹿墨づくり、パラミタミュージアムの見学、ユネスコ世界遺産である国立公園の散策などを通じ、それぞれの国の文化や伝統を深く理解する場を提供しました。

(2) プログラム概要

① 中国との取り組み

- ・参加人数 日本より40名、中国より40名 計80名
- ・参加校 日本: 札幌日本大学高等学校(北海道)
市立札幌開成中等教育学校(北海道)
順天高等学校(東京都)
名古屋大学教育学部附属高等学校(愛知県)
- 中国: 北京市第四中学(北京市)
北京市第八十中学(北京市)
湖南師範大学附属中学(長沙市)
長沙市南雅中学(長沙市)
- ・実施期間 日本プログラム: 2025年 7月14日～ 7月19日
中国プログラム: 2025年10月20日～10月25日
- ・後援 外務省、中華人民共和国駐日本国大使館

② マレーシアとの取り組み

- ・参加人数 日本より20名、マレーシアより20名 計40名
- ・参加校 日本: 筑波大学附属坂戸高等学校(埼玉県)
三重県立四日市高等学校(三重県)
- マレーシア: SMK DATO' ONN (クアラルンプール)
SMK COCHRANE PERKASA (クアラルンプール)
- ・実施期間 日本プログラム: 2025年11月10日～11月15日
マレーシアプログラム: 2026年 1月19日～ 1月24日
- ・後援 外務省

2. アジア ユースリーダーズ(予算：5,800万円、実績：5,780万円)

アジアの将来を担う高校生たちが、グローバルな感覚を養い、多様な価値観を学ぶとともに、リーダーに必要な問題解決力や自発的な行動力を高めることを目的に、共通の社会問題について英語で議論するプログラムです。本プログラムには、これまでに、累計1,376名が参加しています。

(1) 本年度の主な取り組み

インドネシア・カンボジア・タイ・中国・日本・ベトナム・マレーシア・ラオスの8カ国から80名が参加しました。テーマは「安全な水」とし、当初カンボジアでの開催を予定していましたが、現地の治安情勢に鑑み日本開催に変更しました。

① 事前学習による基礎知識の習得

議論の前提となる基礎知識を事前に習得するため、国際大学教授による「リーダーシップと異文化理解」や、上智大学教授による「世界の水事情」をテーマとした講義を実施しました。

② 専門知識の習得

カンボジア王立プノンペン大学教授より「すべての人に安全な水を：世界とアセアンにおける現状と動向」や、東京大学教授より「気候変動下におけるアジアの都市と地域における水環境と国際的課題」に関する講義をいただき、議論に必要な専門知識を習得しました。

③ 安全な水を供給するインフラの視察

千葉市のご協力により、安全な水が提供されるまでの浄化処理技術や施設を視察し、現場を踏まえたディスカッションを行いました。

(2) プログラム概要

- ・参加人数 日本より16名、カンボジアより16名、インドネシア、タイ、中国、ベトナム、マレーシア、ラオスより各8名 計80名
- ・参加校 日本：渋谷教育学園幕張高等学校（千葉県）
関西学院千里国際高等部（大阪府）
兵庫県立国際高等学校（兵庫県）
愛媛大学付属高等学校（愛媛県）
- ・日程 説明会・勉強会（オンライン）：2025年7月26日・8月 2日
プログラム（千葉市）：2025年8月18日～8月23日
- ・後援 外務省、文部科学省

3. イオン スカラシップ(予算：3億1,720万円、実績：2億4,260万円)

将来日本と母国の架け橋として活躍することを目指す学生を支援するため、日本の大学で学ぶアジア各国からの私費留学生と、アセアン・中国で学ぶ各国の大学生を対象に実施しています。また、本年度より日本人大学生にも支給を開始しました。本年度は566名に支給し、累計の奨学金支給人数は9,923名となりました。

(1) 奨学生の採用状況

① 外国人奨学金

日本国内（国内大学等に在籍する留学生） 63名
現地（アジア各国の大学等に在籍する学生） 488名

② 日本人奨学金

日本国内（国内大学等に在籍する学生） 7名
海外（国外大学等に在籍する留学生） 8名
合計：566名

(2) 本年度の主な取り組み

① 新規対象大学での奨学生募集開始

本年度より、マレーシアのマラヤ大学とマレーシア国民大学での奨学生募集を開始し、各12名を採用しました。香港大学については大学と合意し、2026年度からの給付に向けた準備を進めています。

② 日本人大学生向け奨学金支給の開始

日本人奨学生の採用については、昨年度の理事会にてご承認いただき、内閣府への変更認定申請を経て開始しました。イオン スカラシップを実施している国内14大学、ならびに海外26大学の各大学1名ずつの定員40名に対し、本年度の採用人数は15名にとどまりました。

③ 日本語スピーチコンテストの開催（後援：外務省、文部科学省）

イオン スカラシップ事業の一環として開催している日本語スピーチコンテストには、インドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、マレーシアの6カ国107大学から合計335名の応募がありました。

a. 各国での選考会の実施

- ・インドネシア、カンボジア、タイ、ベトナム、マレーシアの5カ国においては、動画による一次選考で選ばれた75名が、各国で実施した二次選考に臨み、上位入賞者24名を日本での最終審査会に招聘しました。中国については、イオン スカラシップの授与式と合わせて二次選考会の開催を予定しておりましたが、情勢に鑑み開催を見送りました。

b. 日本での最終審査会および表彰式の開催

- ・2026年2月11日に東京都内で最終審査会、および表彰式を開催しました。今年度より新設した「文部科学大臣賞」1名のほか、「イオンワンパーセントクラブ賞」1名、ならびに「優秀賞」5名を表彰しました。
- ・訪日中、参加者たちは日本の大学に留学しているイオン スカラシップ奨学生と交流したほか、国会議事堂の見学や歌舞伎体験などを通じて、日本文化への理解を深めました。

④ 20周年記念事業

2025年9月12日、現役ならびに歴代の奨学生204名が一堂に会し、イオン スカラシップ20周年記念式典を開催しました。また、スカラシップ終了後も修了生同士がつながり、後輩を支える持続的なコミュニティの基盤として「イオン スカラシップ同窓会」を発足しました。2026年3月には運営実務セミナーを開催したほか、会場近隣の公園にてクリーンアップ活動を実施しました。

(公益目的事業3) 地域社会の持続的発展に資する事業

1. ふるさと未来支援(予算：1億4,900万円、実績：1億2,360万円)

地域社会を構成する一員として、子どもたちの健全な育成、次代に引き継ぐ伝統文化や歴史風土の普及継承、ならびに地域社会が抱える諸課題の解決に取り組んでいます。

(1) 伝統文化・歴史風土の普及継承のための助成

① 本年度の主な取り組み

a. 広報・告知活動の強化

ふるさと未来支援事業の周知、認知度向上に向け、日本の伝統文化の継承活動を進める(公社)全日本郷土芸能協会の広報誌への掲載や当財団のホームページ、SNSも活用し、募集告知を強化しました。結果、応募は181件(昨年差+111)となりました。

b. 次年度募集の早期化による応募数の拡大

2026年度助成については、2025年10月に新聞広告やSNSでの告知を開始し、早期化を図ることで募集期間を十分に確保し、更なる応募数拡大を図りました。

② 助成概要

- ・助成対象期間 2025年4月1日～2026年3月31日
- ・助 成 対 象 日本国内の地域文化・工芸技術の継承活動の実施団体
- ・助 成 先 124団体(昨年差+58)
- ・助 成 総 額 1億円

(2) 里山再生事業

里山の再生と地域価値の創出を一体で進める「イオンの里山プロジェクト」に参画し、子どもたちに学びや体験の場を提供してまいります。2025年11月、当財団は、千葉県香取郡多古町、イオン株式会社、公益財団法人イオン環境財団の4者で今後の連携を目的とした合意書を取り交わすとともに、事業開始に向けたワークショップに参加し、次年度の協働事業について検討を開始しました。

(3) イオン すくすくらボ

乳幼児から未就学児の子育てをされているご家庭を対象に、会場近隣の団体と協力した子育てセミナーや、育児に関するお悩み相談会を実施しました。乳幼児向けのコンテンツとして、親子で楽しめる手遊びや、株式会社イオンファンタジーのオリジナルキャラクターとの体操などのプログラムを実施しました。

本年度は8回開催し、計197組572名が参加しました。

① 実施日	2025年	5月17日	イオンモール浜松志都呂	(静岡県)
	2025年	5月25日	イオンモール旭川駅前	(北海道)
	2025年	8月31日	イオンモール京都五条	(京都府)
	2025年	9月21日	イオンモール新居浜	(愛媛県)
	2025年	11月24日	イオンモール新利府	(宮城県)
	2025年	12月20日	イオンモール川口	(埼玉県)
	2026年	2月21日	イオンモール須坂	(長野県)
	2026年	3月15日	イオンタウン始良	(鹿児島県)

② 参加対象 開催地域周辺の未就学児（0～3歳児）とその家族

2. 災害復興支援(予算：1億1,530万円、実績：4,380万円)

大規模災害により被災した方々が、日常の生活を一日でも早く取り戻せるよう、迅速な緊急支援金や物資の贈呈などを通じ、被災地の復旧・復興を支援しています。

(1) 本年度の主な取り組み

① 緊急災害復興支援

・ベトナム台風21号

2025年10月、台風21号の被害が甚大であったベトナムに5万米ドルの緊急支援金を贈呈しました。

・タイ南部豪雨

2025年12月、記録的な豪雨で深刻な被害が発生したタイ南部に5万米ドルの緊急支援金を贈呈しました。

・インドネシア・スマトラ島豪雨

2025年12月、集中豪雨に伴う洪水被害が甚大であったインドネシアに5万米ドルの緊急支援金を贈呈しました。

② 首里城復興支援

2019年10月31日未明に発生した大規模な火災により、甚大な被害を受けた世界遺産首里城の再建を支援するため、2024年度までに緊急支援金1千万円を含む総額5億1千万円を寄付しました。本年度は2026年秋に予定されている正殿の復元完成に向け、復興への機運を全国で高める取り組みを実施しました。

a. 「首里城復興祈念展」の開催

(一財)沖縄美ら島財団や琉球大学と協力し、「首里城復興祈念展」を開催しました。本年は沖縄県の後援をいただき、復興状況を伝える展示を拡大したほか、琉球大学教授による講演を実施しました。

実施日	2025年12月	8日	～	12月14日	イオンモール幕張新都心	(千葉県)
	2026年	1月13日	～	1月18日	イオンモール名取	(宮城県)
	2026年	1月22日	～	1月25日	イオンモール旭川西	(北海道)
	2026年	2月9日	～	2月16日	イオンモール白山	(石川県)
	2026年	3月2日	～	3月11日	イオンモール岡山	(岡山県)
	2026年	3月20日	～	3月27日	イオンモール太田	(群馬県)

b. 認知度向上

ウェブサイトやSNSを通じた告知に加え、3月より、琉球放送、琉球朝日放送でのCM、および沖縄の寄付企業の店内サイネージにて首里城復興支援の活動紹介を放映するなど、認知向上を図りました。

(2) 紺綬褒章の受章

① 「令和6年能登半島地震」からの復旧・復興に向けた緊急支援金として石川県へ1億6,000万円、富山県へ2,000万円を寄付したことに対し、内閣府より紺綬褒章を授与されました。2025年6月11日に石川県より、同7月17日に富山県より褒状の伝達が行われました。

② 首里城復興に対する緊急支援金1千万円を含む合計5億1千万円の寄付に対し、内閣府より紺綬褒章を授与されました。2025年11月1日に沖縄県より褒状の伝達が行われました。

3.公益法人への支援(予算：1,600万円、実績：1,600万円)

(1) (公財) パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会への助成

- ① パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌 (PMF)
2025年7月9日～7月29日開催のフェスティバルにメインスポンサーとして協賛しました。期間中、札幌と東京にて、イオン チアーズクラブのメンバーがオーケストラメンバーから楽器演奏を教わる体験会を行いました。
- ② イオン スカラシップ授与式での演奏会
2025年6月28日に東京都で開催したイオン スカラシップ授与式にて、PMF 修了生に弦楽四重奏を演奏いただきました。

(2) (公財) サイトウ・キネン財団への助成

- ① セイジ・オザワ松本フェスティバル
2025年8月11日～9月9日開催のフェスティバルにプラチナ会員として協賛しました。長野県松本市にて、イオン チアーズクラブのメンバーがオーケストラメンバーと交流するとともに、舞台装置や演出道具の見学ツアーを行いました。
- ② イオンスカラシップ20周年記念式典での演奏会
2025年9月12日に東京都内で開催したイオン スカラシップ20周年記念式典にて、オーケストラメンバーに弦楽四重奏を演奏いただきました。

管理費 (法人会計) (予算：7,910万円、実績：6,390万円)

1. 広報活動

(1) 広報媒体の充実

活動内容を簡潔にまとめたリーフレットを日本語・英語・中国語の3カ国語で新たに制作し、イベント会場で配布するなど、認知度向上を図りました。

(2) ホームページやSNSを活用したPR強化

- ① ホームページの魅力度向上を図るため、2024年度に開始した環境や社会への理解を深めるコラムを週1回配信しました。結果、ホームページ閲覧回数はコンスタントに毎月約11万回(昨年差+2万)を超える結果となりました。
- ② 事業活動の配信のほか、各種イベントでのPRを強化したことで、Instagramのフォロワー数は2025年度末時点で約4,230人(昨年差+1,320)となりました。

(3) 海外イベントへの参加

大使館や各省庁が主催する各国のフェスティバルに出展し、当財団の活動について周知するとともに、各国の大使館や省庁との連携強化を図りました。

- ・カンボジア 2025年5月 3日・5月4日 代々木公園
- ・ベトナム 2025年5月31日・6月1日 代々木公園
- ・中国 2025年9月 6日・9月7日 代々木公園

(4) 会員データベースの整備

これまで別々に管理していた各事業の参加者データを新たなデータベースに統合し、属性分析や情報発信ができる仕組みを構築しました。さらに、中学生作文コンクールの個人応募者やイオン エコワングランプリの2025年度の応募者から、マイページを開設し、自身の情報更新やセミナー等への参加登録を可能としました。

2. 団体会費（活動支援の寄付として）

- | | |
|------------------|-----------|
| ・ ジャパンプラットフォーム | 年会費 30 万円 |
| ・ 公益財団法人花と緑の農芸財団 | 年会費 22 万円 |
| ・ 公益財団法人公益法人協会 | 年会費 12 万円 |

以 上